TTC ゆった～り山行実施記録表　2018 年 3 月23 日　報告者: S.M

山行名	南足柄狩川河畔　春木径　・幸せ道の春めき桜花見（神奈川県）
実施日	平成 30 年 3 月 24 日(土)　日帰　　公共交通利用
天候／参加人員	天候：晴、レベル：★　参加者：申込１１名/実施１４名（男 5／女 9 名）
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	省略
参加メンバ	省略
費用 一人:1,976 円 ｶﾝﾊﾟ金:0 円	1,９７６円（本厚木起点交通費） 本厚木⇔小田原（@453ｘ2）￥906、小田原→大雄山￥270、富士ﾌｨﾙﾑ前、→飯田岡￥170、飯田岡→小田原￥170、小田原⇔入生田(@230ｘ2)￥460／交通費合計￥1976 小田原ﾌﾗﾜｰｶﾞｰﾃﾞﾝ温室入場料￥200:65 歳以上(公的証明書提示)は無料

		歩行時間	休憩+移動	行動時間
	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	—	—	—
	計画	—	—	4:40＊
	実行*	2:49	2:47	5:36

*実行は当初計画と大幅に異なります。
歩行数：約 17，000 歩

実行コースタイム記録

小田急線（集合 10:00）大雄山線　0:14　春めき桜花見　0:30　0:04　大雄山線
本厚木駅＝＝小田原駅＝＝大雄山駅――春木径入口(大泉河原橋)――幸せ道出口(大泉河原橋)――富士ﾌｨﾙﾑ前駅＝＝
9:14　9:54　10:12　10:33　10:42　10:56　11::26　11:30　11:39

0:18　（昼食）　0:18（ﾋｽｲｶｽﾞﾗ鑑賞）　0:22　0:08　大雄山線　箱根登山鉄道　0:22
飯田岡駅――諏訪の森公園――小田原ﾌﾗﾜｰｶﾞｰﾃﾞﾝ――諏訪の森公園出口――飯田岡駅＝＝小田原駅＝＝入生田駅――
11:50　11:52　12:09　12:45　13:03　13:35　13:57　14:05　14:13　14:25　14:50　15:01　15:03

0:15　0:18　箱根登山鉄道　小田急線
稲葉一族の墓――枝垂れ桜――入生田駅＝＝小田原駅＝＝本厚木駅
15:25　15:30　15:45　16:00　16:18　16:30　16:42　16:45　17:30 着

コースの概要、特記事項、反省事項等

昨年、一昨年と春めき桜に逢いに行き、香る桜、満開の美しさに感動したのでみたび訪ねることを楽しみに、開花状況を観光課に問い合せると、少し前の雨、風、強風で「見るも無残で鑑賞はお勧めできません」と言われて大ショック。そこで代替え案を二つ、三つ用意して実施することにしました。

集合場所で、小田原フラワーガーデン、入生田の長興山、小田原城趾公園立寄りの了承を得、先ずは予定通り響のよい春めき桜に逢いに行くことに。少し花が残っていたので、狩川の土手に咲く菜の花と共に満開の春めき桜の美しさをそれなりに想像して楽しめたと思います。春木径とは、近くにある富士フィルムの創始者春木栄氏の名前から名付けられたそうです。

次は小田原フラワーガーデンへ。ヒスイカヅラが最高の見頃との情報を得ていたので、飯田岡駅からの上り坂を頑張りました。途中の県立諏訪の森公園で昼食にし、食事の後もうひと頑張り。梅林を抜けて、トロピカルドーム温室に入ると、お目当ての神秘の華ヒスイカズラの花穂がたくさんぶら下がっていました。宝石の翡翠のような神秘的な色に全員感動の声をあげました。花穂は 1mにもなるとのこと、息を呑むほど美しい花でした。そのほかブーゲンビリア、ハイビスカス、バナナ、パパイヤなどを目に焼き付け、諏訪の森公園の空中歩道から、雪を戴いた丹沢の山並みの眺望をひとしきり楽しんだ後、飯田岡駅から小田原駅に戻り、箱根登山鉄道に乗り換えて入生田駅に向かいました。

駅からは、急坂と苔むした石段を約２２分登って、稲葉一族のお墓をさきにお参りしました。８基の五輪塔の墓が横一列に並んでいて、春日局のお墓は左から４つ目でした。つぎが目的の枝垂れ桜、７分咲きとの情報でしたが、やはり７、８分咲きで、上部の花が薄く、１０年ほど前に見たときより、年月を経て少し元気がなくなったように感じました。灰色の空をバックに近くから見るより、帰りがけ少し離れた所から、緑の森をバックに見た２本の枝垂れ桜の方が豪華に見えて、素晴らしかったです。もう一つの立寄り先の小田原城趾公園の桜見は、夕方になってしまったので割愛して帰宅の途につきました。

最後に、箱根登山鉄道小田原駅ホームで起きてしまった事故についてお伝えします。電車に乗るため、ホームを歩いていた女性メンバの一人が躓いて転倒し、右手と前頭部を強打してしまいました。駅員の計らいで、救護係が付き添って近くの病院に救急搬送してもらい、診断を受けた結果、右前腕部が骨折していることが分かり、応急処置を受けて帰宅。翌々日に厚木市立病院で精密検査を受けた結果、手術を受けるという残念なことになってしまいました（詳細は別途報告）。